

平成20年度

## 男女共同参画社会に向けた中学生の作品（作文、短歌、俳句）入賞作品（荒尾市中学生）

熊本県玉名地域振興局では、荒尾玉名地域の中学生から、毎日の生活の中で男女共同参画について考えた作品（作文、短歌、俳句）を募集し、合計138点の応募がありました。いずれも素晴らしい内容でしたが審査の結果、入賞作品（優秀賞6点、審査員特別賞5点）が決まり、その中から荒尾市の中学生の作品を紹介します。

〔問〕熊本県玉名地域振興局総務振興課 ☎74・2112

### 優秀賞（作文部門）

自分らしい姿にしたい

荒尾第一中学校 1年 油野木 美鈴

私は性別で「これは女性。」「これは男性。」と決めつけるのは、いけないと思います。

それは、女性の中に力があつたり、男性の中に料理が上手い人などがいるからです。

実際に私も「女子やけんそんな事したらいいかん。おとなしくしとつたら」と親に言われた事がありました。その時「女子の中でも体を動かすのが好きな人もいる。好きな事ができるならいいではないか。」と思いました。その時回りのみんなは「サッカーは男性がやるスポーツだ。」と決めつけていたと思います。でも、女子がサッカーしているのをテレビで見て「やっぱり女子もサッカーをしておかしくないんだ」と思いました。それから、サッカーを続けました。他の友だちも一緒にやり始めました。とても楽しかったです。

中学校に入り美術部に入っています。その美術部に男子が入ってきた時、「何で男子が入ってくるの。変な気がする？」と思いました。その子に理

由をきくと、「そう思うの。『好き』まで行かないけど楽しいから入ってるんだ。」と答えました。

私はこの時「美術は女性」と決めつけていました。その子の理由を聞いて小学校の時やっていたサッカーの事を思い出しました。回りから「女子なのになぜサッカーを。」と決めつけたのと同じように私も、「男子だから。」と決めつけていたのです。私は、決めつけられたり、決めつけて見て分かりました。男女では違いはたくさんあります。しかし、男女に関係なくそれぞれの個性を百パーセント発揮すればいいと思います。そして、認めることができるようになりたいと思います。「男だから…」「女だから…」「あの人は…だから。」など決めつけるのではなく、「あの人は…なんだ。」とありのままの姿を受け入れていきたいです。私自身も自分らしい姿で生きていきたいと思っています。

これらができたら「男女共同参画社会」を築くことができると思います。そして、これまで以上にいい社会・いい男女の関係を築いていけるようにしていきたいと思っています。

### 優秀賞（短歌部門）

父と母 肩を並べて 料理して

何よりうれしく 何よりおいしい

荒尾第三中学校 2年 上野 真実



優秀賞（作文部門）

男女平等を考える

荒尾第三中学校 2年 橋本 実咲

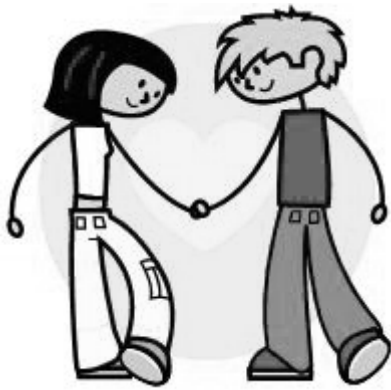
「〇組の応援団長、女子なんだって！」

この言葉を聞いた時、私はとても驚きました。きつこの人は冗談を言っているのだろうとも思いました。やがてこの言葉が本当だと知った時、また驚いた私がいきました。しかし、よく考えてみると、応援団長が女子だと聞いて驚くことはとてもおかしいことなのです。確かに一般的には男子の応援団長のほうが圧倒的に女子よりも多いでしょう。しかし男子が優先であるわけでもありません。女子が応援団長であることに、おかしいことはないのです。私はこんな形で驚いたことをとても恥ずかしく思います。

考えてみると、おかしいことは他にもたくさんあります。おもちゃにしてもラジコンやミニカーは男の子用、人形やぬいぐるみは女の子用として売られています。でも女の子がラジコンで遊んだり、男の子がぬいぐるみで遊んでもおかしくはないと思います。現に、幼稚園時代には男の子も女の子も一緒にままごとをしたり、おいかげっこをしたりしていました。そこには男の子も女の子も関係ありませんでした。私の知っている男の子は、猿のぬいぐるみをジョージ君と名付け、つい最近まで一緒に寝たりしていたようです。

料理の上手な人が料理をする。力仕事の得意な人はそれをする。このようにそれぞれの能力や

特性に応じて役割分担をしていけばいいのではないのでしょうか。今の社会を考えると、これは男性の仕事、これは女性の仕事と最初から決められていて、それに従うのならば普通の人、従わなければ異端者となるのでしょうか。これはとてもおかしいことです。なのに、みんなこれらのおかしいことを当然のように受け入れる。まだまだこんな世の中ではないかと思えます。自分が本当にしたいこと、本当に言いたいことを素直に言える。そんな世の中になつてほしい。いえ、そんな世の中にしななければいけないと思います。では、そのために私にできることは何か。それは、おかしいことはきちんとおかしいと言うことだと思います。学校の中では男女関係だけでなく、力関係でたくさんの方が決まってしまうようなこともあります。おかしいことがおかしいといえる、そんな勇氣から男女平等は始まるのだと思います。



審査員特別賞（短歌部門）

腕痛む 母はりウマチ ひどくなる

父は笑顔で 家事を手伝う

荒尾第三中学校 2年 国武 大和

ああイヤだ 聞きたくないな そのセリフ  
男のくせに 女のくせに

荒尾第三中学校 2年 米野 未紗

帰り道 仲良く並ぶ 向日葵は  
キッチンに立つ 父母のごとく

荒尾第四中学校 2年 山下 鈴香



子育てを 夫婦一緒に やっている  
これが私の 理想の夫婦

荒尾第三中学校 2年 上野 真実